

3-③-4. 敷地周辺の人と車の動線と景観を読む。

中央図書館の計画に先だって、この敷地の持つ特色と魅力について、現地調査の資料を添え、基本計画検討委員会に提示して、イメージの助けとした。図書館建築としての条件を満たしつつ、この敷地環境に相応しい図書館建築のかたちがいくつもあると思われるが、それらは共通して以下の視点を持つに違いないと考えた。

□人と車の動線から敷地を読み、中央図書館の環境を想像する。

中央図書館敷地へ、運営側の配本車や障がい者の自動車が出入りする時は、利用動線は北側の車道から敷地に入ることになる。

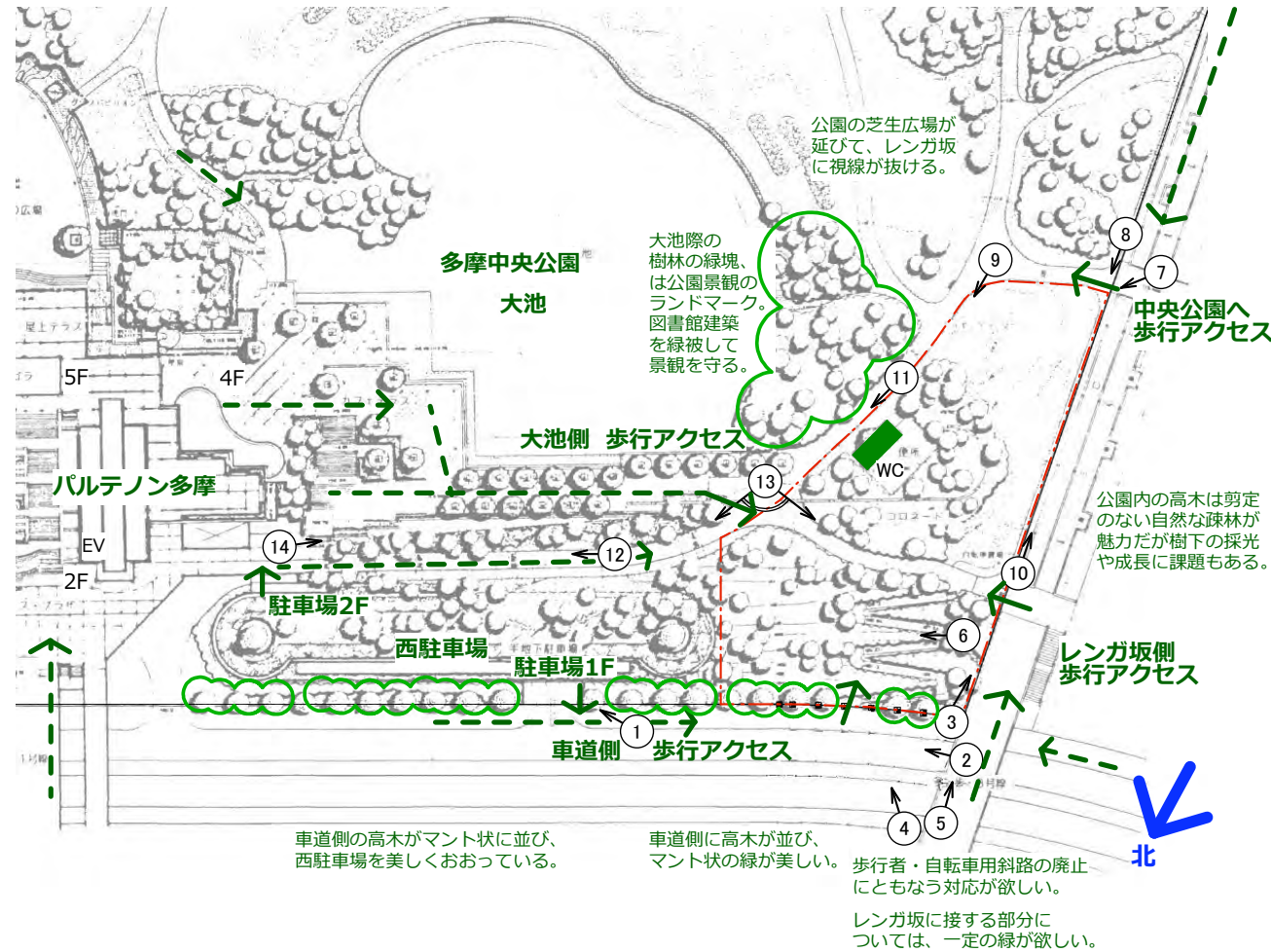
歩行者は周辺の住宅地や駅から、東側公園園路からや、西側のレンガ坂から、また北側車道の歩道から敷地に入るだろう。3方向の高さの違う敷地への動線が想像される。西駐車場の一階を利用する人も、北側の歩道から入るだろう。

□魅力的な景観から敷地を読み、中央図書館の環境を想像する。

3方向から敷地に近づくとき、それぞれに景観としての特色と魅力に気づく。北側からは疎林の緑塊が印象的であり、マント状の連続する緑は大切に考えておきたい。西側のレンガ坂沿道の緑についても、建築と競合する場合は新たな緑の景観の創出が必要になるだろう。南側の公園からの景観としては、建築が低層ならば大池西の疎林の影となり、現状の公園景観が守られると想像される。施設設計では、既存の緑の整理、補充、施設緑化など、公園の緑環境への参加と、景観から突出しない建築作法が求められるだろう。

◇コメント

- 人のアクセス：多摩センター駅から敷地への距離は2ルートともに500m程となっている。
 - ・敷地西側に歩行者専用道（レンガ坂：1/16.7、6%勾配）がある。
 - ・パルテノン多摩のエレベーターが改良される予定で、中央公園内を通る道は、階段部の上り下りについても快適な散策ルートとして歩けるだろう。
- 車のアクセス：北側の車道から、お年寄りの送迎や障がい者駐車や、業務車両が出入りする。
 - ・東隣にパルテノン多摩西駐車場（2階建て100台）がある。
- 駅から中央図書館敷地までのバスルートの運行が、市民ヒアリングでは期待されている。



□敷地への動線と多摩中央公園の緑の景観（現況写真キープラン）



3-④. 施設計画

3-④-1. 施設計画の基本的考え方

- 施設計画を考える機能の優先順位は、
- ① 全市施設に分散配置してきた資料を集約し、地域資料を含めた充実した開架部門を構築することが、中央図書館のもっとも基本的な機能と考える。
 - ② 子どもと家族、若者、現役世代、高齢者など、多様な世代が自分の課題を解決するために集い交流できる広場スペースが、開架エリアに溶け込む場づくりが重要とし、パルテノン多摩で計画される設えと役割分担しながら、さまざまな場の提供を行う。
 - ③ 図書館ネットワークのセンター機能を発揮するため、書庫や選書など分館を支えるバックヤード機能や、学校図書館支援や団体貸出などの地域奉仕分野の充実を図る。
- 施設計画検討の考え方としては、
- ① 全国的な指標や同規模図書館事例などと比較しつつ、中央図書館の蔵書やサービスに応じた全体と各部門の機能に応じた規模を考える。
 - ② パルテノン多摩との連携や機能分担を考慮し、ホール機能や一時保育の子育て機能、駐車場機能などは連携に譲り、その場で資料と連携することで発揮される図書館固有の機能に必要なスペースを配置する。
 - ③ 先進の事例なども参考に、会話しながらともに学ぶ場と、静かに学ぶ場との峻別、ニーズの高い学習席の充実、開架スペースと連続性のあるフリースペースを設ける。

3-④-2. 諸機能の部門構成と面積割合

(1) 開架室系部門 (資料25万冊～30万冊収容 + 多様な読書席500をめざす)	2850㎡	52%
<ul style="list-style-type: none"> <開架室広場系 : ①②③⑦⑧⑨⑩⑪⑫ 他 > <開架室静寂系 : ①②④⑤⑥⑨⑩⑪⑫ 他 > 	~1020㎡	~1830㎡
<ol style="list-style-type: none"> ① 一般成人分野 (一般書、ラーニング commons、展示架、読書席、グループ研究室など) <ビジネス支援、健康都市、医療支援、学校教育支援、などコーナー> ② 新聞と雑誌分野 (新聞架、雑誌架、バックナンバー架、閲覧席など) ③ 視聴覚分野 (CD、DVD、PC視聴共用席など) ④-1 参考資料分野 (参考書架、調査/研究席、研究室、地図架、展示架など) ④-2 地域資料分野 (書架、キヤレル席、閲覧机席、企画展示コーナー、など) ④-3 行政資料分野 (書架、キヤレル席、閲覧机席、研究室、政策展示コーナーなど) ⑤ 学習室 ⑥ 障がい者サービス分野 (朗読奉仕室、録音編集室、録音図書や展示図書の書架など) ⑦ 子どもサービス分野 (低書架、絵本架、紙芝居架、座席、お話し室、はだしスペース、トルなど) ⑧ YAティーンズ分野 (書架、ラーニング commons、グループ室、展示架、交流板、PC席など) ⑨ 情報コーナー (ICT環境、検索ソフト、オンラインデータベース、プリンター、コピー機など) ⑩ 自動貸出 / 返却コーナー (貸出機 / 返却機+受入作業小室など) ⑪ 予約本取置きコーナー (書架、貸出機など) ⑫ サービスデスク周り (利用者滞在スペース、登録と相談デスク、記帳机など) ⑬ 野外読書テラス (庇下席、緑陰読書席、BDS内管理区域、) 		
(2) 市民活動支援部門 (開架と連続し一体的な環境で、活動諸室や場を提供する)	850㎡	15%
<ol style="list-style-type: none"> ① フリースペース (講座/会議/研究/学習/自由席/可動展示架/展示架収納庫など) ② カフェ機能 (営業厨房/ロッカー/倉庫、自販機、座席はフリースペースやテラスを利用など) ③ 多目的スペース (机椅子席、椅子並べ席、マルチメディア会議、倉庫、空調機械室など) ④ 市民活動機能 (教室規模で2室程度、) ⑤ ボランティア活動スペース (可動壁で分割利用がよい、ワークテラスなど) ⑥ 野外活動テラス 		
(1+2) 市民利用系部門連続 (2840+860= 3700㎡を一体的に、人と資料の場を編成) (資料30万冊 + 読書席500 + 自由な活動の場)	3700㎡	67%
(3) 資料保存部門 (27万冊収容書架。→ 将来の増床増設を踏まえる)	440㎡	8%
① 閉架書庫		
(4) 運営と管理部門	720㎡	13%
<ol style="list-style-type: none"> ① サービスデスクとワークスペース (縦動線で書庫や裏方相互と近接/2箇所など) ② 地域奉仕分野 (館外奉仕準備スペース/書架3万冊/庇下に配本車作業スペースなど) ③ 資料構築分野 (選書見計らいコーナー/発注/自館装備スペース、書架2千冊など) ④ 企画運営分野 (企画/庶務/応接席、中小打ち合せ室、市民共用の印刷製本室など) ⑤ スタッフ諸室 (教護室、男女ロッカー洗面室、職員トイレ、スタックラウンジなど) ⑥ 派遣職員控室 (清掃員控室、用具と消耗品庫など) 		
(5) ロビー・共用部門	640㎡	12%
<ol style="list-style-type: none"> ① 共用スペース (公園から通り抜けパサージュとして、廊下、倉庫、WC、EV、他) ② 利用者のアクセス支援設備 (歩行者斜路代替え、自転車も乗るエレベーター) ③ 屋上部のしつらえ 		
施設機能床面積 合計 (面積は、収容力と機能を満たすおおまかな目安)	5500㎡	100%

◇コメント

※公立図書館の任務と目標
1989. 2004改 日本図書館協会
図書館がここで掲げる図書館として機能し得る為には、以下の最低限度数値が必要と書かれている。

○人口15万人の自治体の図書館システム全体として

- ・延床面積: 最低1080㎡ + 0.05~0.03㎡/人
- ・人口15万人: 6.161㎡以上
- ・蔵書冊数: 最低67,270冊 + 4.8~3.6冊/人
- ・人口15万人: 64.74万冊以上
- ・開架冊数: 最低48,906冊 + 2.69~1.67冊/人
- ・人口15万人: 32.30万冊以上
- ・資料費: 最低1,000万円
- ・796~442円/人
- ・人口15万人: 7970万円以上
- ・年間増加冊数: 最低5,574冊 + 0.32~0.24冊/人
- ・人口15万人: 42,506冊以上
- ・職員数: 最低6人 + 0.025~0.043/100人
- ・人口15万人: 64人以上

※図書館ネットワークの中心館を各地で、本館、中央館、中央図書館、総合市民図書館、などと呼んでいる。

※開架室は、中央部の低中書架(h1.5m程)と周辺部の高密度高書架で構成。地域・行政・参考資料は高書架で収容冊数を満足させ読書席を配置する。開架は一般に、40冊/棚で計画し書架の整備がされている。比較参考資料にある開架後の開架実数を観察すると、貸出されつつ開架運営されている収容実数は50冊/棚が見える。開架目標25万冊は、×50/40=30万冊に相当すると考えた。

※図書館基本計画の計画面積は、
・建築計画上で必要とする諸室の合計となる建築床の面積。
・サッシュ内の建築物室内の床面積。
・鉄製書架で造られる積層書庫の上層床は、通常は含めない。
・読書テラス等、室外域は含めない。
・建設費を概算する時に建設床単価に乗ずる床面積となる。(以上、過去事例取り扱いより)

※建築基準法上の延べ床面積は、
・確認申請に使われる延床面積。
・建築物の室内床面積に、規定外部箇所を加算した法的面積。
・深い庇下読書テラス等室外含む。
・積層書庫上層床がある場合は含まれるので今回築造しない。(書架を積層化して上層床板を作る書架工事は、書庫増築が必要になる将来に先送りする。この時、確認申請と消防設備工事が必要になる。)

3-④-3. 諸機能と各部門の配置概念図/相関図

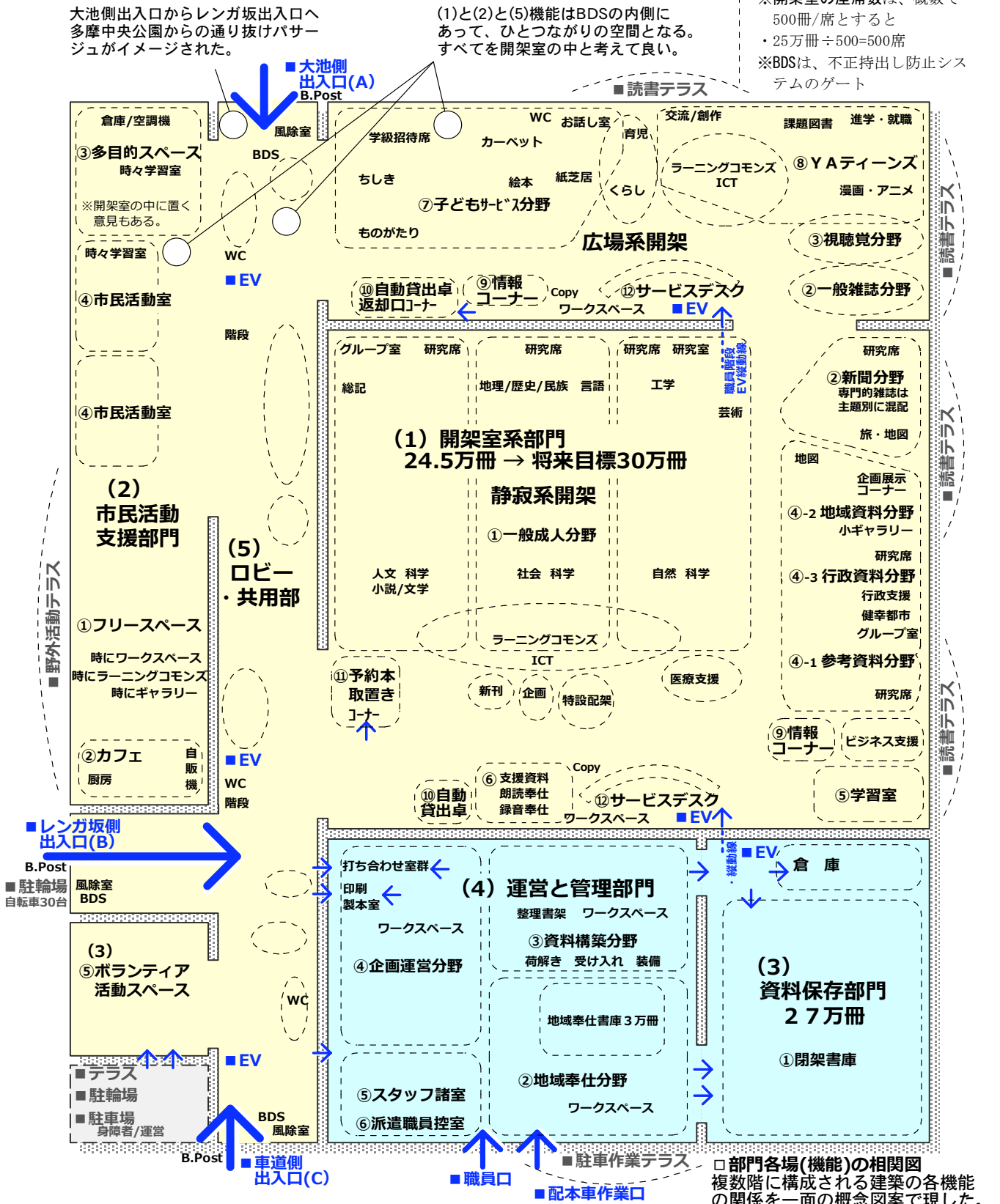
- ここでは、各部門のゾーニング、諸室、諸機能の位置関係性と配置を図案化した。
○3方向からの出入口と各部門への利用者動線の仕組みを、一平面に図案化した。現実的には、出入口につながる床のレベルから、複数階の建築構成になることがイメージできる。
○複数階にあるサービスデスクと閉架書庫は、エレベータと階段の縦動線につながり、運営管理部門なども含めて、水平移動が短いことが望まれる。

◇コメント

◎新中央館施設床面積: 5500㎡ (100%)

- ロビー・共用部
- 市民活動支援開架系部門
- 運営/管理/書庫

※開架室の座席数は、概数で500冊/席とすると
・25万冊÷500=500席
※BDSは、不正持出し防止システムのゲート



□部門各場(機能)の相関図
複数階に構成される建築の各機能の関係を一面の概念図案で現した。

3-④-4. 部門別の諸機能の内訳

施設計画の基本的な考え方を踏まえて、中央図書館に必要な機能について、「開架室系部門」「市民活動支援部門」「資料保存部門」「運営と管理部門」「ロビー・共用部」に分けた。さらに、それぞれを構成する主な機能を洗い出し、以下の表に配置した。なお、面積割合についてはあくまで目安とし、今後、設計の過程で詳細に検討する。

1. 開架室系部門.

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
(1) 開架室系部門	<p>・開架図書は開館時20万冊、収容力25万冊。</p> <p>・大池側とレンガ坂側の二方向の玄関ホールから自然に連続して、市民が近づきやすく、誰もが自由に資料を手にとれる開架室を置く。地階玄関からはエレベーターを利用して二層の開架室にアクセスする。</p> <p>・一般資料世界をなるべく広く、資料群のつながりを構造化して配架し、世界を映す開架室を出現させる。</p> <p>・開架資料の全てがレファレンス資料という理念で、配架展示する。そこに本と人の居心地をしつらえる。</p> <p>・開架資料全体は、開館時 20.6万冊→将来25万冊。</p>	<p>※視聴覚資料を除いた図書資料の数</p> <p>市民活動支援部門のスペースと連続的一体的な環境をしつらえ、これらのなかで、500席以上の多様な居場所・座席を設ける。</p> <p>※開架室は、中央部の低中書架(h1.5m程)と周辺部の高密度高書架で構成。地域・行政・参考資料は高書架で収容冊数を満足させ読書席を配置する。開架は一般に40冊/棚で計画し書架の整備がされている。比較参考資料にある開架後の開架実数を観察すると、貸出されつつ開架で運営されている収容実数として、50冊/棚が見える。 開架目標25万冊は、×50/40=30万冊に相当すると考えた。</p>	<p>中計 2850㎡ (52%)</p>
	<p>□市民に身近で親しみやすい構成の広場系開架室は、視聴覚、子ども、YA、ラーニングコモンズ、暮らしに役立つ一般書、雑誌などで構成する。広場のにぎわい活気や生活音に包まれた環境になる。</p>	<p>○広場系開架：1020㎡前後 =①120+②100+③120+⑦350 +⑧200+⑨50+⑩20+⑪20+⑫40㎡</p>	
	<p>□専門的知的な資料を蓄えた構成の静寂系開架室は、一般、参考、地域行政、新聞、主題雑誌、支援系資料で、静かさや落ち着きある資料世界と居場所環境になる。</p>	<p>○静寂系開架：1830㎡前後 =①1260+②100+④270+⑤90 +⑥50+⑨10+⑩10+⑫40㎡</p> <p>※開架室の中に多目的スペースを配置する事も設計段階で検討する。</p>	
①一般成人分野	<p>・一般成人開架は、開館時14.2万冊→将来18万冊とし、必要収容力を満たす書架と十分な閲覧席を配置する。</p> <p>・暮らしに役立つ一般書などの資料を1万冊→将来2万冊配置とし120㎡を割り当てる。</p> <p>・静寂系開架室には、人文科学、自然科学、社会科学で13.2万冊→将来16万冊配置とし1260㎡を割り当てる。</p> <p>・そこで一般開架の書架の収容力は18万冊とする。</p> <p>・高書架7段、中低書架5段をゆとりあるように配置し、開架全体の構成が感じられ、圧迫感なく、サービスの目も届きつつ変化あるスペースづくりを工夫する。</p> <p>・読書席と書架群とを別々の領域とするのではなく、本の中に人がいる、人の中に本がある、という一体感を出すような本の森のイメージ環境をしつらえる。</p> <p>・新刊展示架、企画展示架、特設主題架を織り交ぜる。</p> <p>・外国語文献、多文化サービス、ビジネス支援、医療介護資料など、NDC分類を超えた主題を立てて複合的総合的な配架表現が、開架室そこここに展開する。</p> <p>・地図架、旅行パンフレット架、7門大型本架、文庫新書架、CD/DVD架など表現性のある書架を制作する。</p> <p>・机椅子、スツール、くつろぎ椅子など多様な座席を一般開架で150席程度配置する。</p>	<p>書架(5段と7段、手が届く高さ)各門にニュース対応の展示板架。読書席(机、いす)、多様な形式で150席。</p> <p>地図架/地図台/地図ケース 旅行パンフレット架 ショーケース架、複本収納架、</p> <p>ICT環境</p>	<p>1380㎡</p>
②新聞と雑誌分野	<p>・新聞、雑誌を自由に閲覧する。ポピュラーな雑誌は広場系開架に気軽に配置する。一般と専門の新聞、主題受けの雑誌は、静寂系開架の大机のある落ち着いた環境で、一定の期間の新聞(1ヶ月)雑誌(半年)のバックナンバーを配架する。</p> <p>・日刊紙、その他専門新聞 30紙 雑誌 300誌</p> <p>・開架室全体に目が届き、静寂でくつろげるところ。</p> <p>・新聞、雑誌が乱雑にならないよう、閲覧席、新聞架、雑誌架の配置、出入り通行動線の離隔を考慮する。</p> <p>・専門系雑誌は主題配架を方針として、バックナンバーを含め開架の分野に混配される。</p> <p>・新聞を広げる傾斜机、くつろぎソファ席も欲しい。</p>	<p>・当日新聞差し、当月新聞架</p> <p>・雑誌架(バックナンバー12冊/タイトル)</p> <p>・閲覧席(机いす席)20(ソファ)20</p> <p>・新聞記事データベース等 ICT環境</p> <p>※多摩市の図書館システム全体では、 ・新聞:27種75紙購入、4種8紙寄贈受入 ・雑誌:趣味-専門371種553部購入、165種171部寄贈受入</p> <p>・分館に分散配架された上記資料は、一定期間後に合本などされ、中央館の書庫に収蔵され、利用に供される。</p> <p>・地元記事クラブは地域資料部門に、新聞原紙6ヶ月保存は中央館書庫に収蔵されることを施設計画とする。</p>	<p>200㎡</p>

3-④-4. 部門別の諸機能の内訳

1. 開架室系部門.

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
③視聴覚分野 資料と視聴席	<p>・音楽や映像メディアを貸出し、鑑賞席で視聴できる。</p> <p>・広場系開架室の中で、青少年分野に隣接するところ。</p> <p>・多主題であるから誰もが近づきやすい位置を考える。</p> <p>・資料 12000冊と目録 CD 10000タイトル DVD 2000タイトル</p> <p>・鑑賞席、グループ鑑賞室20㎡</p> <p>・視聴画面が見えないプライバシー配慮された視聴席。また、サービスデスクから注意が届くよう配置する。</p> <p>・CD等は新本館に集約し、一括管理することを検討。希望するCD等はリクエストで各館受取。</p>	<p>・資料架</p> <p>・視聴席(音楽/映像)</p>	<p>120㎡</p>
④-1 参考資料分野 レファレンス(調査/研究スペース)	<p>・静寂系開架室の一翼で、落ち着きがあり、地域資料や行政資料と一群をなす。相談デスクを配置する。</p> <p>・参考資料 6000冊(→将来8000冊) (辞書・事典類を中心に、インターネット環境、データベースPC)</p> <p>・書架の必要な資料を取り調査研究に閲覧席利用する。</p> <p>・地図をひろげられる4人テーブル席2台を配置する。</p> <p>・個人調査研究席は10席程度の静寂キャレル室を配置。</p> <p>・個人研究室2、グループ研究室(6人席)2を配置する。</p> <p>・近くに、ビジネス支援コーナーや医療サービスコーナーや情報コーナーを配置して、関連づけたサービス分野を形成する。</p>	<p>・7段高書架</p> <p>・掲示板</p> <p>・バーチャルファイルキャビネット</p> <p>・研究大机席(4席×2=8席)</p> <p>・研究机席(8席)</p> <p>・個人キャレル席静寂室(10席)</p> <p>・個人研究室(1席×2=2席)</p> <p>・グループ研究室(4席×2=8席)</p> <p>・ICT環境、</p> <p>・OPAC端末席</p>	
④-2 地域資料分野	<p>・多摩市、周辺市、東京都などの地域資料を収集し、市民の調査・研究を援助する。</p> <p>・資料 10000冊(→将来12000冊)と目録 大型地図(都市計画図/都市形成史図/防災地図など)</p> <p>・市民と地域の資料を研究し蓄積したい。</p> <p><多摩市民文庫/地域新聞/コミュニティ誌・広報紙/チラシ></p> <p>・調査席は参考資料コーナーと共用とする。</p> <p>・ニュータウン及び旧町資料についてコーナーを設け、行政と市民と地域の資料展示コーナーを育てたい。</p> <p>・パルテノン博物館、文化財担当と連携し協働する。</p>	<p>・7段高書架</p> <p>・展示ショーケース架</p> <p>・掲示板</p> <p>・大型地図架</p> <p>・パンフ/リーフレット架</p> <p>・バーチャルファイルキャビネット</p> <p>・研究席(10席、4席はキャレル)</p> <p>・ICT環境</p> <p>・旧メディアのビデオテープ 視聴席</p>	<p>270㎡</p>
④-3 行政資料分野	<p>・多摩市、周辺市、東京都などの行政資料、統計資料を収集し市民の調査・研究を援助する。</p> <p>・行政業務や議会活動に奉仕する。</p> <p>・資料 5000冊(→将来6000冊)と目録 大型地図(都市計画図/都市形成史図/防災地図など)</p> <p>・調査席は参考資料コーナーと共用とする。</p> <p>・議員活動資料、住民運動資料、地域催事のチラシ等冊子体でなく逸散する資料をストックするシステムを研究し蓄積したい。(市民活動資料アーカイブズ)</p> <p>・「健康都市」など政策主題関連資料の収集展示する。</p> <p>・まちづくり(6門)などを総合化し配架する事例もある。</p>	<p>・7段高書架</p> <p>・展示ショーケース架</p> <p>・掲示板</p> <p>・大型地図架</p> <p>・パンフ/リーフレット架</p> <p>・バーチャルファイルキャビネット</p> <p>・ICT環境</p>	
⑤学習室	<p>・図書館計画の通例では学習室は集会機能に含むが、開架室の中に設けたいという意図でここに置いた。</p> <p>・最近事例の静粛読書室と考えてもよい。</p>	<p>・学習席</p>	<p>90㎡</p>
⑥障がい者サービス分野	<p>・視覚等の障がいにより図書館利用に障がいのある利用者に資料と場を準備する。</p> <p>・静寂系開架室内のサービスデスク近くが望ましい。</p> <p>・資料 3000冊(→将来5000冊)と目録 録音資料、点訳資料、大活字本、音訳ソフトPC</p> <p>・大活字本は高齢者も手に取りやすい一般成人分野へ。</p> <p>・対面朗読など利用者への直接サービスは永山拠点館が利便で今後も中核になるが、資料作成など行政協力員との協働の場は中央図書館に充実させる。</p> <p>・中央館でも朗読奉仕。録音資料、点字資料をつくる。</p> <p>・対面朗読室は音が外にもれないよう反響しないよう工夫し、戸外の気配が感じられる環境が望ましい。</p> <p>・録音編集室は、更に床からの振動にも配慮したい。</p> <p>・点字プリンターは、防音とともに対面朗読や録音に支障がないよう運営と管理部門に設置する。</p> <p>・資料制作以外のボランティアの催事活動や打合わせには、開架部門とは別の市民活動部門に、利用時間が自由なボランティア活動スペースを準備しておく。</p>	<p>・録音編集機器</p> <p>・編集デスク、椅子</p> <p>・朗読用机、椅子</p> <p>・モニター、試験機器</p> <p>・拡大読書器、資料架、物品架</p> <p>・朗読奉仕室(13㎡)</p> <p>・録音編集室2(7㎡)×2</p> <p>・CD架(デジジー)</p> <p>・録音図書(カセット)/録音雑誌架</p> <p>・音声読み上げ対応インターネットPC席</p> <p>・デスクへ的高齢者動線との干渉を回避した誘導ブロックの配置。</p>	<p>50㎡</p>
-1 朗読奉仕室			
-2 録音編集			
-3 ボランティア室			

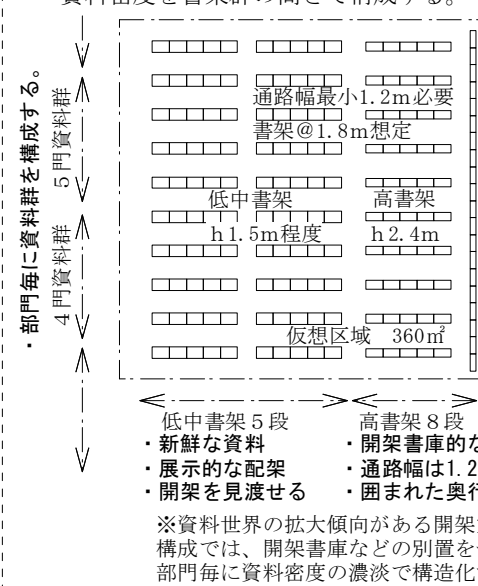
3-④-4. 部門別の諸機能の内訳

1. 開架室系部門.

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
⑦子どもサービス分野	<ul style="list-style-type: none"> 幼児から小学生を主な対象とし、本や絵本、紙芝居などの資料貸出と読書の環境を広場系開架室に置く。 誰にも開かれたスペースとして気軽に近づける環境。 児童図書 30000冊 複本は資料毎に適宜考慮する。(絵本8000冊、紙芝居 300巻、赤ちゃん絵本200冊、ちしき/よみもの21500冊、児童雑誌10、新聞3紙、) 児童書研究の棚コーナーを子ども開架に置く。 当面の図書は基本図書と新刊の悉皆的収集につとめ、徐々に副本率を高めたい。開架の副本架を工夫する。 読書席と書架群とを組み合わせ楽しい雰囲気を作る。 渡辺茂男記念「へなそうのへや」をしつらえる。 30人のお話室、お話裸足コーナー(20㎡)を付設する。 近くに、水飲み、手洗い、子どもWC/親子WCを設ける。 児童司書サービスデスクとワークスペースを設ける。 布の絵本などの貸出・展示をする。 読み聞かせのできるような親子読書席を複数つくる。 おむつや授乳のための小室と給排水設備を準備する。 子ども開架は図書を50冊/棚、絵本を80冊/棚で計画。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども用低書架 4段 絵本架2段(可動だと良い) 絵本コーナーを広場にできる。 紙芝居架2段 赤ちゃん絵本架(裸足コーナー) 読書席(机、いす)60席程度 児童司書デスク またはサービスデスク 職員目の届く子どもトイレ へなそうのへや(展示コーナー含む) 30㎡ お話室20~25㎡ (グループ視聴室/モニター、DVDデッキ) カーペットコーナー30㎡ (臨時託児スペースと併用を工夫) 	350㎡
⑧YA(ヤングアダルト)ティーンズ分野	<ul style="list-style-type: none"> 多様な青少年系資料と交流の場を広場系開架に置く。これまで(学習室)利用の対象でしかなかった十代世代を、若いおとなとして、場を設け受け入れる。 彼らの興味ある資料や進学、職業の資料群を用意し、図書館への親しみを増すような工夫をする。ともに、音楽や映像資料の場に近く利用を積極的に組合せる。 さらに、若者どうしのコミュニケーションの場、友達つきあいの場、たまり場としての働きも持たせる。 ○青少年向き資料を編成し配架 8000冊 一般成人あるいは子どものための分野とも、自然なつながりを持たせ、双方の本にも近づきやすくする。 若者同士で話しあったりする場所を、他のスペースの邪魔にならないよう、ある程度独立した感じの場として、広場系開架室にしつらえる。 YAと子ども分野の中間に、50席程度のラーニングコモンズ(学習席ひろば)を配置する。 1クラス分の学級招待席として硝子張りの教室的なしつらえも考えられる。市民活動支援区域とは違い、資料が近くにある魅力を場としてしつらえたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 書架(8000冊収容) 検索席(机、いす)5席 グループ室 ICT環境 コミュニケーションボード 交流掲示板 読書席(机、いす)50席 1クラス分の学級招待席 ラーニングコモンズ(学習席) ※ラーニングコモンズのICT設備の装備など、場の構成は設計段階で協議する。 	200㎡
⑨情報コーナー	<ul style="list-style-type: none"> データベース、蔵書目録(OPAC)、電子ジャーナルやインターネットなど、目的ごとに端末を割り振り、利用者のコンピュータによる資料検索のスペース。 ビジネス支援コーナーの近くに配置する。 データベース利用上、参考図書近くに配置する。 サービスデスクから目の届くところ(利用援助) インターネット用(利用時間の制限などを検討) 書架間にも数台を設置する。(蔵書検索など) 	<ul style="list-style-type: none"> 広場系、静寂系開架の双方に 機：立ち机型、座り机型、 蔵書目録端末4台程度×2707 無線LAN設備(機器端末数は設計段階に併行して検討決定) インターネット端末は10台程度を参考資料コーナーや開架各所に配置 データベース8種、参考資料の近くに配置。 ※機器台数は設計段階で協議する。 	60㎡
⑩自動返却コーナー 自動貸出コーナー	<ul style="list-style-type: none"> 自動返却口を設け、背後に機器と返却作業室(将来自動返却仕分機を置くの広さ)を一箇所配置。整理機、再読取り機、ブックトラックを配置。 開架室の出入口近く自動貸出機 3台程度二箇所配置。 出入口外のブックポスト位置と数は、駅前ブックポストの存続や利用状況をみて、今後検討し決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸出：広場+静寂系、3台×2箇所 返却：広場系1箇所、ポスト式、 自動貸出機、返却機(専門工事) 返却用ブックトラック、数台 返本室(10㎡程度)、仕分機無し ※機器台数は設計段階で協議する。 	30㎡
⑪予約本取置きコーナー	<ul style="list-style-type: none"> 予約本取置き書架で囲まれたコーナーを設け、専用ゲート、貸出機を置く。 開架部門が閉鎖の時も、共用部から入ると良い。 当面3000冊程度の書架を用意する。 自動貸出機をコーナー入口に配置する。 	<ul style="list-style-type: none"> 広場系開架各一箇所 6段書架15連、3000冊対応。 感知ゲート 自動貸出機/机 予約照会機 ※機器台数は設計段階で協議する。 	20㎡

3-④-4. 部門別の諸機能の内訳

1. 開架室系部門.

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安																
⑫開架室内サービスデスク周り	<ul style="list-style-type: none"> 総合案内、登録受付、自動貸出補助、リクエスト受付、読書案内などの接遇を行う利用者側スペース。 レファレンス(調査研究・地域資料の利用のための援助、情報検索援助を含めて)を行うサービスデスクと利用者の設備やスペース。利用者席背後に通行動線が近寄ることなくプライバシーの守れる配置とする。 位置は出入口に十分注意を向けられるところにする。 デスク配置は利用者に威圧感を与えないようにし、入口から真正面の向きにしない。落ち着いた環境にしつらえる。 近年は、こどもデスク、相談デスクはH70cm程度で、椅子対応とするが、貸出返却のサーキュレーションデスクはH85cm程度で、職員も立った対応とする形式が多くなっている。 利用者にわかりやすい案内サインを設置する。 職員が出入りしやすいよう、いくつか区切られるように工夫する。 デスクバックのしつらえは運営管理部門に記載する。 	<ul style="list-style-type: none"> サービスデスク ×2箇所(立ち机型、車いす対応とする)(案内、クイックレファレンス、登録、) レファレンスデスクも兼用したい 子どもデスク ×1箇所 手荷物置棚をデスク客側に設ける 記載台 	80㎡																
⑬野外読書テラス	<ul style="list-style-type: none"> 開架室につながるテラスに読書席を配置する。庇や緑化パーゴラ下に読書席、くつろぎ席を設える。資料持出感知ゲートの内側管理区域として配置する。 飲食や、お話し劇場など野外活動にも利用したい。 		全体の面積配分から調整 0㎡																
⑭開架室の書架配置と収蔵量検討	<p>○開架室の書架配置モデル 資料密度を書架群の高さで構成する。</p>  <p>○開架室の書架配置域、収容力の試算</p> <ul style="list-style-type: none"> 低中書架の配置域 (h1.5m@1800想定) 2×5段×40冊×10連×10列=4.0万冊(中置き) 高書架の高密配置域 (h2.4m@1800想定) 2×8段×40冊×5連×10列=3.2万冊(中置き) 8段×40冊×20連×1列=0.6万冊(壁付き) 高書架の配置割合を1/3程度と仮定して、収容の余裕を80%とみて、(試算360㎡当たり) 小計 最大6.3万冊 (175冊/㎡) <p>→ 20万冊の書架配置区域：ネット 1150㎡ 通路を1.4m書架間隔2mとすれば約1300㎡ (収容の余裕を96%とみれば同面積で25万冊可能)</p> <p>○一般開架室には上記に、新聞雑誌や視聴覚資料コーナー、朗読録音室、各種機器コーナー、地図・絵画架閲覧席、研究室、ラーニングコモンズの加算。</p> <p>○こども開架室(絵本は2段80冊/棚、知識・読み物は5段40冊/棚)は上記に、絵本架・紙芝居架、はだしコーナー、お話室、親子トイレ、学級招待席、閲覧席、グループ室、などが面積に加算される。</p> <p>→ 20~25万冊の開架室系部門の面積： グロス：中間値 1200㎡ × 2.37倍 = 2840㎡</p> <p>→ 30万冊としたときの開架室系部門の面積： グロス：中間値 1800㎡ × 1.58倍 = 2840㎡</p> <p>○資料計画(検討案)の計画条件</p> <table border="1"> <tr> <td>一般開架</td> <td>180000</td> <td>参考資料</td> <td>8000</td> </tr> <tr> <td>地域行政</td> <td>18000</td> <td>子ども</td> <td>30000</td> </tr> <tr> <td>YAライブラリ</td> <td>8000</td> <td>障がい者支援</td> <td>5000</td> </tr> <tr> <td>視聴覚</td> <td>(12000)</td> <td>合計</td> <td>約25万冊</td> </tr> </table> <p>○開架室は開館後の目標期間を経て、目標の資料世界を徐々に構築する。その骨組み設計が資料計画となる。</p>	一般開架	180000	参考資料	8000	地域行政	18000	子ども	30000	YAライブラリ	8000	障がい者支援	5000	視聴覚	(12000)	合計	約25万冊		
一般開架	180000	参考資料	8000																
地域行政	18000	子ども	30000																
YAライブラリ	8000	障がい者支援	5000																
視聴覚	(12000)	合計	約25万冊																

3-④-4. 部門別の諸機能の内訳

2. 市民活動支援部門

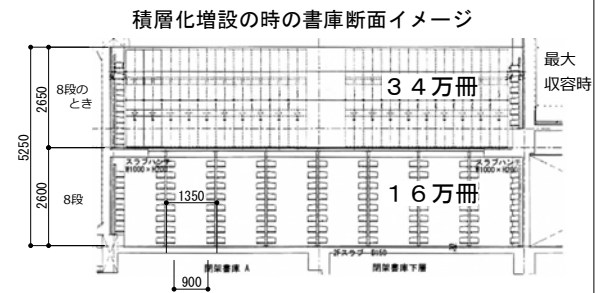
部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
(2)市民活動支援部門	・集会と展示は図書館サービスの主要な活動とされて半世紀、「図書館ひろば論」が定着した。		中計 850㎡ (15%)
① フリースペース	・玄関ホールから連続し判りやすく行きやすく見える。開架と一体的にゲート内管理区域として配置する。 ・部屋として区切らず開かれたスペースとし、広場系開架の図書スペースとも自然につながるように配置。 ・夏休みや開架閉鎖時間帯にも利用できればなお良い。開放的な講座、講習、会議、研修その他に利用する。 ・椅子席コーナーをしつらえる。	・スタッキングチェアと台車 ・8人机と椅子。 ※開架室内では、書架と座席を混在させながら、より落ち着いたスケールのラーニングコモンズをしつらえる。	380㎡
「開かれた催事」	・ラーニングコモンズ ・「自由ひろば」		
「展示ギャラリー」	・玄関ホールに近いコーナーとして各種の展示を行う。 ・図書館企画の絵画、写真、ポスター等の展示、図書やそれに関連する展示、住民の地域研究展示ができる。 ・可動展示壁と室壁面で展示壁長80m程度を設えたい。 ・可動展示壁は可変で溜まり場と展示コーナーを作る。 ・大小活動と展示の場をティーンズやグループが作る。 ・展示、掲示板可動壁の収納倉庫を設ける。	・可動展示壁 W4m両面×7枚と固定展示壁面、総延長約80m程。 ・スポット照明 ・可動展示ケース ・可動展示壁の収納庫。	
② カフェ	・敷地外周の高木に囲まれた緑の景観の喫茶コーナー。 ・貸出し手続きの前に試し読み出来る。 ・手洗い、自販機、喫茶厨房を配置する。	・テーブルとスタッキングチェア ・手洗い、自動販売機、営業可能な厨房設備。	カフェ厨房 ロッカー/倉庫 自販機コーナー 30㎡ フリースペース 展示用倉庫 30㎡
③ 多目的スペース	・人口5～10万人規模の図書館集会所の近年の典型例をふまえ、収容人数、機能パターンを配置する。 ※図書館に関わらない公民館の一般利用は選別されるとした。 ・平土間で机椅子で60席の配置ができる。講座、学習室、椅子席のみで150席程度配置。講演会、映画会、催事。 ・多目的室へのアプローチ環境のフリースペースとは、透過性間仕切で。開放して一体の利用も可能とする。 ・舞台無し。視聴覚設備。人形劇や影絵装置、 ・専用の空調機械室、机椅子の収納倉庫。 ※開架室の中に多目的スペースを配置する事も設計段階で検討する。	・2教室程度130㎡広さの平戸間。 ・3人机と椅子×20セット/60席。 ・スタッキング椅子のみの配置 120席。	130㎡ 机椅子倉庫 20㎡ 空調機械室 20㎡ ※開架室に配置の時、面積移動。
④ 市民活動室 (1) (2)	・図書館利用に関連して市民や市民グループの活動を支援する諸室。研究会/読書会/講座/懇談会/応接に。 ・机と椅子の配置を変えて36～42席の会合ができる。 ・活動室へのアプローチ環境となるフリースペースとは、硝子間仕切りなど透過性と一体感をしつらえる。 ・70㎡(現本館の旧教室の広さ)を外気に面して2室。 ・机椅子や備品の収納は多目的室と共用倉庫を使う。	・広い教室程度の広さで、2室。 ・3人机と椅子×15セット×2室。 ・掲示板、ホワイトボード。 ・映写スクリーン/プロジェクター	70㎡×2 140㎡
⑤ ボランティア活動スペース	・図書館運営や図書館市民利用を側面支援する市民や市民グループの活動を支援する諸室、スペース。 ・市民で個人で利用する市民活動支援ゾーンとは別に、搬入車利用や運営部門や印刷製本室に近い場が良い。 ・お話し会、子ども催事、記録資料作成など、予約無しに適宜利用ができて、自在にコーナー区画して複数のグループで使いたい。 ・長方形のワンルームとし、2室又は2コーナーに、可動壁で区画して、それぞれ20席程の机椅子を持つ。 ・物入、グループロッカー、手洗い、野外活動テラス、があればなお便利。	・作業机と椅子15席程×3セット。 ・作業や打合わせ、待機スペース。 ・コーナーを区画する掲示板付き可動壁。ホワイトボード。 ・グループロッカー ・物品架6、備品庫、洗面台、	100㎡
⑥ 野外活動テラス	・計画条件ではないが、公園の緑景観を借景とした市民活動を支援する諸室がゾーンをつくり、ここには樹間に張り出した野外活動や休息のテラスがあり、緑陰の野外テーブル席が配置される環境イメージが湧く。 ・中心市街地の建築や歩道を歩くひとびとからは、図書館開架室とは違う賑わいの情景が垣間見られる。 ・これらテラスはゲート管理区域内としておきたい。	・野外のテーブルと椅子。 ・雨や直射日光を避ける庇やオーニングや藤棚などがあるとよい。 ・強風で飛ばない座席への工夫があるとよい。	全体の面積配分から調整 0㎡

※ゲート管理区域は、資料の不正持ち出しを防ぐゲート管理システムの範囲。

3-④-4. 部門別の諸機能の内訳

3. 資料保存部門.

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
(3)資料保存部門	・閉架系収容冊数は当初30万冊(閉架書庫27万冊、地域奉仕書庫3万冊)。将来の必要な時期に積層書庫を増床、書架増設の可能性を検討しておく。		中計 440㎡ (8%)
①閉架書庫	・サービスデスクや作業室から動線が明快で近い位置。図書、新聞・雑誌、地域資料、行政資料等の資料を保存。 ・防火区画、地下室の二重壁、熱負荷や直射日光対策、温度湿度調整(温度17～25℃、湿度50～60%)、防虫、など環境計画に留意する。 ・収容冊数は当初27万冊、将来増設をふまえる。 ・下層固定架、上層可動集密架を想定して、部分整備。(法的床面先に参入される書架床の導入を回避した。) ・書庫内の検索、曝書、整理等の人の作業環境としても健康的であり機能的であるようにしつらえる。 ・閉架書庫の資料収容数は、45冊/棚として計画する。 ・温湿度管理の壁仕様を持つ特別収蔵庫は、バルテノン多摩収蔵庫の利用を想定し、中央図書館では整備しない。 ・多摩市に関わる和書、漢籍、日本画、軸の受入れ、寄託された郷土古文書等の保管を中央図書館は想定しない。	固定書架と可動集密書架 作業台 ブックトラック 奥行60cm物品架(新聞合本用)	440㎡
◎参考例示1 閉架書庫の書架配置と収蔵量検討	○閉架書庫内の書架配置(増設変化)と収容力の試算: 3-②資料計画:開館時19.5万冊。団体貸出資料を含め閉架系で30万冊の収容力が条件。 ○左に固定書架、右に可動集密架の時	○開館前後の閉架系書庫の資料の増減について ・2018年 本館書庫+団体貸出室冊数 : 226,000冊 ・拠点館地域館から書庫への移動 : 33,000冊 小計 : 259,000冊 ・中央図書館開館前に除籍廃棄予定冊数 : 64,000冊 ・中央図書館開館時の閉架系収容冊数 : 195,000冊 ・中央図書館開館時の30万冊書庫の余裕 : 105,000冊 ・2018年の年間購入冊数 : 26,300冊 ※30万冊書庫の余裕は、年間購入冊数の4年分。 また閉架書庫は収容冊数の8割で機能満杯という。 ○440㎡の書庫計画について ①開館時の書庫収容力:27万冊(614冊/㎡)左の図(地域奉仕分野に3万冊書架を置き、残り27万冊) ・複式固定8段書架 @1350 2×8段×45冊×10連×17列 = 12.24万冊 1×8段×45冊×11連×1列 = 0.4万冊 ・可動集密8段書架(9連可動+固定架) 2×8段×45冊×5連×40列 = 14.40万冊 ②平場増設した収容力:35.3万冊(802冊/㎡) ・複式固定書架5連×17列 = 6.5万冊 ・可動集密書架5連×80列 = 28.8万冊	
◎参考例示2 閉架書庫の積層化検討	将来に書庫の拡張が必要になった場合、50万冊程度まではスチール製書架工事の積層書庫化で可能となる。下層の固定書架の支柱をあらかじめ積層型にしておき、上層に床とレールを設け、可動集密書架を配置する。上層書架有効高とEV停止部に留意。床面積が増え、確認申請と消防設備が必要。統計上の施設面積が増える。	○下層の固定書架 ○上層の可動集密書架	



3-④-4. 部門別の諸機能の内訳

4. 運営と管理部門. 5. ロビー共用部.

部門・区分	位置・機能・資料・構成	備品・設備	面積の目安
(4) 運営と管理部門	運営管理の②③④は音/空調/防塵は区画しつつ視覚的には一体に連続する。		中計 720㎡ (13%)
① サービスデスクとワークスペース	・開架室各層にサービス+相談デスクを置く。 ・デスクの裏方が、サービス部門担当者のワークスペースとなり、予約や督促などの裏方作業をしつつ、デスク人員の応援がすぐできるようにし、効率的な人員配置としたい。	・車椅子も使える裏方エレベーター、階段。 ・作業机、椅子、書架	開架室各層ごとに 64㎡
② 地域奉仕分野	・地域図書館、幼保園、学校図書館、団体・施設への貸出奉仕。底下の配本車スペースや閉架書庫に近接。 ・地域奉仕書庫3万冊と配本コンテナヤードを備える。(7段複式高書架@1.35m、45冊/棚、ブックトラック置場) ・団体貸出本の入れ替え作業、貸出図書の修理を行う。 ・外来者との打ち合わせ室(共用でよい) ・底下作業照度に留意。倉庫、洗車水栓、ゴミ置場、	・作業台、机、いす、洗面台、 ・地域奉仕書庫3万冊、物品架、 ・掲示板、白板、お話し道具置場、 ・ブックトラック、整理書架、 ・サービスポイントごとの書棚とコンテナ置場、PC端末、 ・配本車用の車庫は設けない。	220㎡
③ 資料構築分野	・図書資料の選書・受入・整理・発注作業を行う。 ・複数の共用小会議室があれば施設見計らいに使う。 ・荷解き配送室：搬入に便利な位置、段ボール置き、 ・選書・受入・整理室：資料情報収集と選択、選書会議、自館装備・地域資料検収・分類目録装備、落ち着いた作業。 ・学校図書館とも選書協働。フリーアクセス、広い通路必要。 ・印刷・製本室：防音、合本修理、市民共用出来る位置。 ・防音に配慮した点字プリンターコーナー	・書庫に近く整理書架と作業台を。 ・高書架2千冊、作業台、 ・物品架、換気設備、物置き、 ・大型作業台、ハンフ架、選書個席、 ・書類キャビネット、PC端末、収納架、 ・複写機、軽印刷機、裁断機、簡易製本機、展示用印刷機、作業台、 ・点字プリンター	140㎡
④ 企画運営分野	・事業企画、庶務、経理、施設管理、外来者対応を行う。 ・②③分野作業スペースと視覚的連続。④はフリーアクセス、 ・館長席や応接席も置く。複数小会議室を市民と共用。 ・市民グループやボランティアとの接点の諸室を並置。 ・企画や庶務担当など常時在籍業務のスタッフ以外は、人数分の固定机を配置せず共用ワークデスクを置く。 ・個人に可動の鍵付きサイドキャビネットを支給し事務室集約。	・共用の小会議と打ち合わせ室3 市民共用の印刷製本室を並置。 ・書類棚 ファイルキャビネット 物品棚 ・事務机席を席、大作業机、 ・打合せコーナー、個人支給袖机、 ・コンピュータ、コピー機、 ・掲示板 白板	160㎡
⑤ スタッフ諸室	・スタッフルーム：職員休息、食事や小会議に利用。 緊急救護スペースは職員や利用者が横になれる。 ・スタッフルームには職員研修や情報交換のための書棚を置く。 ・職員ロッカー室：男女比を変えられて洗面台を設置。 ・通用口に近く、採光換気があり外気のスタッフテラスもあるとよい。職員用トイレをエバーサル仕様で配置する。	・ミニキッチンと冷蔵庫 ・テーブル・椅子席 ・リラクセスできる環境 ・畳スペースか折りたたみベッド ・男女別のロッカー室、洗面台 ・男女別トイレ	120㎡
⑥ 派遣職員控室	・施設管理、清掃の派遣職員が常駐し休息に利用する。 ・通用口に近く、居住性がよくワークテラスが欲しい。 ・機械警備の主装置を近くに置く。 ・清掃具、消耗品収納庫、休息のスペースを配置する。	・テーブル、手洗台、ロッカー ・用具収納庫	16㎡
(5) ロビー共用部			中計 640㎡ (12%)
① 共用スペース	・3方向からの自然で入りやすいアプローチに対応の玄関と風除室を置く。段差なく誘導床サインで導く。 ・施設全体の構成がエントランス空間から感じられる。 ・共用部からブックアクションの管理下の平面計画とする。 ・情報案内サイン、支援機器配置スペースを考慮する。 ・廊下、階段、トイレ、給湯室、を機能的に配置する。 ・共用倉庫や視聴覚室空調室など適宜必要に対応する。 ・設計段階で必要に応じて設備機械室を設けてもよい。	・傘立て、車イス、ベビーカート、 ブックカートの収納スペース。 ・ブックポストを3方面配置検討。 ・コイン式ロッカーを相当数配置。 ・開架部門の閉鎖時間に市民活動支援スペースを使える工夫必要。	共用部・その他 640㎡程度。 ※平面計画構成次第で変更可。施設全体面積を守りつつ、設計してよい。
② 利用者のアクセス支援設備	・高齢者障害者等のための底下アプローチと駐車場3台。 ・業務用駐車4台、底下で積卸しする配本車スペース。 ・駐輪場は、レンガ坂側出入口近くに自転車30台、車道側出入口近くに自転車30台バイク20台。 ・必要時に増設と利用管理ができる検討を設計時に行う。 ・現敷地の歩行者斜路を代替えし、24時間使える野外のエレベーターを、外部に併設する。	・駐車場マーキング、車止め。 ・機械式駐輪設備と平戸間止め。 ・コイン管理方式等検討 ・レンガ坂と北側歩道をつなぐ、 車イスも、自転車を押しでも乗れる野外のエレベーター。	全体の面積配分から調整 0㎡
③ 屋上部のしつらえ	公園景観に配慮し環境配慮型設備や屋上緑化・屋外活動スペースの創出などを検討する。		
合計	図書館計画床面積合計(サッシュ内面積)	現在の本館床面積 5480㎡	5500㎡(100%)

□ 類似規模の自治体で参考となる中央図書館の資料対応の施設構成の計画

<資料の配置ごとの冊数規模、対応する場の面積規模を計画する>

	浦安市立中央図書館	武蔵野市立中央図書館	君津市立中央図書館	南相馬市立中央図書館	土浦市立中央図書館	多摩市立新中央図書館(基本計画案)
人口 敷地面積 本館職員数	16.8万人 8,161㎡ 正33+専非20人 一般非98人	14.5万人 3,006㎡ 正19+非23人 一般非3人	8.6万人 3,606㎡ 正8+非19人	7.4万人 6,671㎡ 正7人+嘱14人 一般非5人	目標 14.5万人 5,020㎡	14.9万人 4,400㎡ (未定)人
開架室 開架冊数	1,640㎡ 21万冊 こども:4万 一般・参考:17万	2,451㎡ 17.5万冊	1,760㎡ 21.1万冊 こども3.6万YA6千 一般・参考:17万	1,524㎡ 12.5万→ 18.2万冊 こども5万。 紙芝居1200 一般・参考:13.2万 視聴覚:1万	3,370㎡ 20万冊 音声5千・映像5千。 新聞24・雑誌320。	開館時 20万冊 収容力24.5万冊 目標30万冊
準開架 公開書庫 (開架冊数)	700㎡ 20万冊	なし	300㎡ 10万冊	740㎡ 10.6万冊 (YAも置く)	なし	なし
開架系 冊数合計	2,340㎡ 41万冊	2,451㎡ 17.5万冊	2,060㎡ 31万冊	2,264㎡ 28.2万冊	3,370㎡ 20万冊	2,850㎡ 将来目標 20万冊→30万 (現開架997㎡)
閉架書庫 収蔵能力	764㎡ 24万冊 年間53800冊受入	1,437㎡ 52.5万冊	640㎡ 33.6万冊 30+3.6万	448㎡ 34.2万冊 30+4.2万 計画書:200冊15万	380㎡ 36万冊 自動閉架書庫32万	440㎡ 27万冊→50万 将来増築 (現閉架1084㎡)
運営部門 事務室等	地域奉仕/整理書庫 7+3万冊 620㎡		地域奉仕/整理書庫 3万冊 400㎡	地域奉仕/整理書庫 4.2万冊 380㎡ 計画書:477冊 ・地域奉仕:261 ・資料:86 閉架別 ・運営:130	440㎡	地域奉仕 3.0万冊 720㎡ (現事務室789㎡) (現団体貸出405㎡)
集会展示 市民活動系	上記の内 296㎡ 学習室:144㎡ 視聴覚室:106㎡ 椅子席140席	232㎡	845㎡ 視聴覚室166可動席	(旧)市民交流情報センターが図書館の集会展示部門に 1,853㎡ 視聴覚室150可動席 80机椅子席	(旧)市民交流情報センターが図書館の集会展示部門に 550㎡	ボラ 学習 集会 交流 子育て 850㎡ (現閲覧学習237㎡) (現活動集会136㎡)
ロビー 共用部門	1276㎡ Mレ・EV・廊下 ロビー・倉庫 BM車庫	2702㎡ (地下駐車場含) BM車庫	1351㎡ (地下読書席 テラス等含) BM車庫	453㎡ BM車庫	380㎡	640㎡ (現共用1799㎡) (※学校建築の廊下)
図書館面積 蔵書冊数 合計	5,296㎡ 74.8万冊 (雑誌/視聴覚別) 現状満杯→外部存置	7,529㎡ 70.0万冊 (収蔵能力)	4,896㎡ 63万冊 (収蔵能力)	3545+1853= 5,398㎡ 57.4万冊 +23000タイトル	5,120㎡ 56.0万冊	計画床:5,500㎡ 50万冊 →80万冊 (現延べ床5480㎡)
複合施設 その他 共用部	複合なし	複合なし	現状複合なし	現状複合なし	複合施設合計 12,300㎡	複合なし 駐車場 バリアフリー 3台 業務用 4台 駐輪60/バイク20

□ 類似規模の中央図書館立ち上げに学ぶ、資料規模に対応した施設面積構成の特色

最近15年ほどに開館や計画準備のある、類似規模の自治体の中央館計画の施設計画では、①30万冊規模の開架室、②5000～8000の座席配置、③ラーニングコモンズなど書架以外の居場所のしつらえ、④自動貸出・返却・予約などICT機械化による運営、など施設規模の大型化と運営のコンパクト化が見られ、基本計画にその方針が示されている。

○委員会で検討するための規模比較資料（現本館5480㎡から）

※現在の学校を改修した本館は5480㎡。

□6/9案 室内の建築床面積：5500㎡

- 会議の指摘対応：開架室の収容力と座席数が新時代の図書館として 30万冊・500席をめざす。
開架と市民活動支援の双方の環境が連続的・一体的であるように、資料表現を工夫した。
○事務局の指摘対応：積層書庫上層は計画床（建設床）面積に含むので、築造せず、将来の拡張可能性とした。

(6/9案)	部門・区分	諸室の構成	面積目安	構成比
(1)	開架室系部門	・開架24万冊(実質30万冊) ・学習室90㎡を増やした。 ・市民活動支援のフリースペースと一体的に500席以上配置	2,850	52%
(3)	市民活動支援部門		850	15%
	①	フリースペース (時にラング'コモンズ'50席) + (時にギャラリーと展示用倉庫)	440	
	②	カフェ ※①に含む (営業用厨房を設置)		
	③	多目的室(視聴覚室) 机椅子60席、椅子を並べ120席 + (付属空調室/倉庫)	170	
	④	市民活動室 (70㎡室/机椅子45席) × 2室	140	
	⑤	ボランティア活動スペース (3つに区画45席/印刷製本室を事務と共用)	100	
	⑥	野外活動広場くつろぎテラス (くつろぎ50席/野外集会や催事/ひろば)	0	
(2)	資料保存部門	・開架30万冊 → (将来増築増設で50万冊)	450	8%
	①	閉架書庫 (鉄製書庫：下8段固定書架、一部可動集密書架)	450	
(4)	運営と管理部門		720	13%
	①	サービスデスクとワークスペース	64	
	②	地域サービス分野 ・地域書架3万冊とコンテナ	220	
	③	資料構築分野 ・整理書架4千冊	140	
	④	企画運営分野 ・会議室・応接室・印刷製本室	160	
	⑤	スタッフ諸室	120	
	⑥	派遣職員控室	16	
(5)	ロビー共用部		640	12%
	①	共用スペース (廊下/倉庫/WC/EV他) (公園の通り抜けパサージュとして)	640	
	②	利用者のアクセス支援設備 (自転車を押して乗れる野外エレベーター)	0	
合計			5,500	100%

□5/27案 室内の建築床面積：5400㎡（施設統計上は5820㎡となるだろう。）

- 会議の指摘：開架室の収容力と座席数が新時代の図書館として不十分。→ 30万冊・500席をめざせ。
開架と市民活動支援の双方の環境が、連続的・一体的であるように資料表現を工夫したい。
○事務局の指摘：積層書庫上層は計画床（建設床）面積に含まないが、施設統計上含み5820㎡と説明される。大きすぎる。

(5/27案)	部門・区分	諸室の構成	面積目安	構成比
(1)	開架室系部門	・開架24万冊 ・座席350席～ (500席は欲しい)	2,760	51%
(2)	資料保存部門	・閉架30万冊 → 将来増設50万冊	420	8%
	①	閉架書庫 (鉄製積層書庫：下層固定書架、上層可動集密書架)	420	
	・積層書庫の上層420㎡は鉄製書架で構成され、一般に計画床面積に含まれない。			
(3)	市民活動支援部門		860	16%
	①	フリースペース (時にラング'コモンズ'50席) + (時にギャラリーと展示用倉庫)	440	
	②	カフェ ※①に含む (営業用厨房を設置)		
	③	多目的室(視聴覚室) 机椅子60席、可動傾斜席150席 + (付属空調室/倉庫)	170	
	④	市民活動室 (70㎡室/机椅子45席) × 2室	140	
	⑤	ボランティア活動スペース (3つに区画45席/印刷製本室を事務と共用)	110	
	⑥	野外活動広場くつろぎテラス (くつろぎ50席/野外集会や催事/ひろば)	0	
(4)	運営と管理部門		720	13%
	①	サービスデスクとワークスペース	64	
	②	地域サービス分野 ・地域書架3万冊とコンテナ	200	
	③	資料構築分野 ・整理書架	200	
	④	企画運営分野 ・会議室・応接室・印刷製本室	160	
	⑤	スタッフ諸室	80	
	⑥	派遣職員控室	16	
(5)	ロビー共用部		640	12%
	①	共用スペース (廊下/倉庫/WC/EV他) (公園の通り抜けパサージュとして)	640	
	②	利用者のアクセス支援設備 (自転車を押して乗れる野外エレベーター)	0	
合計			5,400	100%

※この資料頁は、資料編に編集されることとなります。

3-④-5. 中央図書館の施設計画のめざすもの

中央図書館の計画地は都市公園の一隅、法用途が第二種住居地域で、建蔽60%容積200%、公園の穏やかな環境に調和した低層の建築の表情が求められている。また、整備に当たり図書館施設のあり方について、以下の6つの方針を立て設計段階での検討要素として申し送る。

◇コメント

※設計にあたって検討と対応が求められる法律や条例

□環境・みどりにやさしい建築。
自然エネルギーを活用し、省エネルギーな建築環境を目指す。

- 多摩中央公園周辺のみどりや景観に配慮し、敷地や施設の緑化、低層建築化、斜路補完設備（公園機能の補完）などみどりに溶け込む環境型建築を目指す。
- 多摩市施策である、第二次多摩市地球温暖化対策実行計画[公共施設編]に基づき、照明・空調設備等において省エネルギー対策に取組み、エネルギー需要の低減を図ると共に、立地状況等を踏まえた再生可能エネルギー・未利用エネルギーの導入についても、設計段階で検討を行いたい。

(法律)
・省エネ法
(エネルギーの使用の合理化等に関する法律)

(都)
・東京における自然の保護と回復に関する条例： 手続不要

□バリアフリーでユニバーサルデザインが行き渡る建築を目指す。

- 近年バリアフリー法制定により、東京都下では「東京都建築物バリアフリー条例」や東京都福祉のまちづくり条例が施行されている。これらの趣旨や基準にもとづいて、円滑で安全な移動が担保できる建築を目指す。
- 多摩市施策である、多摩市福祉のまちづくり整備指針や多摩市街づくり条例の指導基準についても、設計段階での協議や趣旨の実現が望まれる。
- いかなる状況やハンディキャップを持つ人にとっても、図書館はその生活を支える機関であるから、ユニバーサルデザインが行き渡る施設のしつらえを目指したい。

(都)
・東京都建築物バリアフリー条例
・東京都福祉のまちづくり条例

(市)
・多摩市福祉のまちづくり整備指針
・多摩市街づくり条例、同指導基準

□建築物の耐用性も利用しやすさからも、長寿命な建築を目指す。

- 大勢の市民が永きにわたり利用する公共施設であるから、当然の条件として建築は堅牢であり、災害に強く、時間と共に魅力を増すものでありたい。これらは建築を構成する材料の耐候性や、建築工事での施工の堅実性や、適正な維持管理しやすさなど物理的な要件が第一に達成されて、長寿命な建築に近づくことになる。
- 加えて、利用しやすく多様な利用にも不満を持たれないことも長寿命の条件となる。
- さらに、この建築が市民利用者の共感や愛情を得るものであるかもその要件になる。施設に足らざる要素が生じた時、維持改修か建替えかの判断が建築の寿命を決める。

※施設建築の寿命は、100年を目指すと言われながら建替えが早い。維持改修不可能な施設の老朽化より先に、新構造基準の不適合や、収容力や機能に対応出来ない状況が散見される。専門施設では、これらを踏まえた建築計画が重要と言われる所以である。

□使い方進化に対応できるフレキシビリティのある建築を目指す。

- 図書館基本計画に記された建築の仕様（環境としての質や収容すべき量）が条件となって、無駄のない目的的な建築が、設計と事業の目的となり建築が造られる。
- しかし多くの図書館が50年を経ずに改築される理由は、時代変化の要求に合わない理由だ。書庫の満杯化が、表側の開架室や事務室の混乱や、本の廃棄を導きもする。小さく造るしか想像できなかったY Aコーナーが、青少年部門に成熟拡大する例もある。
- 図書館にとって、部屋や棚の増築性や可変性を計画で踏まえておくことは、100年先を行く米国の図書館と建築に学んだ日本の図書館建築計画学の骨格であった。

※建築のフレキシビリティとは、時代が代わり利用要求の変化に対応できる可変性や融通性、収容力を追加できる成長性増築性を差している。しかし、計画無く大きく部屋をつくり可動間仕切りで分割するアイデアは、コスト上昇と利用上の不評が各地での結果である。

※米国のオランダ、シアトル、デンバー等の公共図書館の増築や改築の先例が研究された。

□建設の経済性だけでなくLCCの低減に配慮した建築を目指す。

- 建設時のインシヤルコストの低減については、建築材料や工費の圧縮ばかり強調されると、長寿命性や建築の質との引き替えが起こり、コスト設計のバランスが重要と言われる。また発注方式の工夫など建設費低減の試みが各地で行われている。
- 運営でのランニングコストは、自然エネルギー利用など経費低減の工夫が各地で実践され、施設長寿命化のための適正な中長期管理計画の立案と実行も有効である。
- さらに図書館施策の場合、歳費の70～75%が人件費であり、より少人数のコンパクトな運営体制の実現が、総合的なLCCには重要で、施設設計の専門性が問われる。

※LCC:ライフサイクルコストとは、建設から維持管理、撤去処分に係る建築の総コストで、それぞれの場面でのコスト管理が問われるとしている。

※政策経費としてもLCCを考えると、コンパクトな運営体制を可能にする、専門的な図書館施設計画は重要になる。